



農作業メモ



◎いもち病の対策

葉いもちが例年、多発している状況です。畦畔の草刈り及び稲の状況を観察し、病気が発生していないかを確認してください。
葉いもちが発生している場合は、ブラシン粉剤(フロアブル)を散布してください。(予防剤及び治療剤)
※散布した場合、出荷米は一般米扱いとなります。

◎出穂期からの水管理

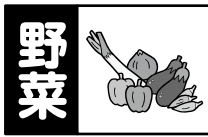
穂ばらみ期から出穂期にかけては稲の体力消耗が激しくなりますので、深水管理をして下さい。出穂期以降は、浅水での間断灌水に切り換えてください。

◎病害虫防除

- ・1回目：水田の約5～6割程度の出穂が確認できる時期に、今年度より「トライスタークル」の散布をお願いします。※いもち病・カメムシ対策です。
- ・2回目：前回散布から7～10日後に「キラップ」の散布となります。※カメムシ対策です。
- 注) 散布の際は使用基準を遵守し、飛散等がないよう心がけて下さい。又、散布された際には栽培管理台帳への記入をお願いします。

◎適期刈り取りについて

1穂籾の85% (籾黄化率)程度黄色く熟れる頃が収穫適期です。茎や葉が緑色であっても籾は黄色くなっている事が多いので、注意が必要です。
目安は出穂期(ほ場の40%程度出穂した日)から35日たった頃です。



甘長とうがらし今後の管理



追肥…収穫始めから行う。※アサヒエース 10a当たり14～20kg (10～14日の目安) 又は、液肥を500倍かん水する。

かん水…水分不足は品質に影響が出る為、こまめにかん水を行う。

※収穫期に水分が不足すると、果実肥大が悪くなることもあり、曲がり果の原因になる。

整枝…主枝の4本は必ず残す。生育が旺盛になるにつれて中が込み合う場合は採光を考え間引き・摘芯する。

※日陰で果実が白くなりやすくなるため、光を十分当てる。

摘果…曲がり果等の不良果は早目に除去する。※樹勢低下になりやすい。

ネット張り…2段目は1段目より40～50cmの高さにする。※1段目は地面から70cmぐらいの高さで張り、出来るだけ主枝4本を広げる。

斑点病対策…Zボルドーを500倍で散布する。(混用はしない・果実の汚れに注意)

害虫対策…スタークル顆粒水溶剤 2000倍 前日まで 2回 スリップス

アフーム乳剤 2000倍 7日前まで 2回 オオタバコガ

モスピラン水溶剤 8000倍 前日まで 2回 アブラムシ類

尻腐れ対策…カルシウム剤の散布を行う。(ジューシーカル・スイカル・エキカル等)を500～1000倍で散布する。

白絹病対策…リゾレックス水和剤 1000倍 前日まで 2回



土壌還元消毒について



あまくさ管内では、7月に入り主要品目であるカスミノソウ、トルコギキョウ等の出荷が終了し、片付けの後次年産の準備が行われます。そこで今回はJAあまくさ管内でも取り入れられている土壌還元消毒について紹介します。

1.効果と方法

還元消毒法は平成11年に道南農業試験場で開発された土壌消毒法です。この消毒は、ハウス土壌に米ぬか(又はふすま)を混和しかん水することで土壌を還元化して土壌病害菌やセンチュウを死滅させる方法です。

特徴は、有毒ガスが発生しないこと、米ぬかを利用するため材料費が安い等です。

・還元消毒法の対象病害

病害菌名および病名	害虫名
フザリウム菌(萎凋病、イチゴ萎黄病、メロンつる割病など)	センチュウ類 (ネコブセンチュウ)
パーティシリウム菌(半身萎凋病)	
ラルストニア菌(青枯れ病)	

2.還元殺菌法の手順

(1)材料

- ・米ぬか300kg/10a ソイルクリーン(発酵菌)3袋/10a
- ・被覆用透明マルチ(古ビニールでも可) ・かん水チューブ(散水チューブでも可)
- ・水30t以上/100坪 ・かん水用ポンプ及びその他

(2)作物残さの整理

ハウス内の作物残さを撤出し、マルチ、かん水チューブ等を撤去します。ハウスの被覆を張ったままにしておきます。

(3)地面の整地

耕起を行い畦を崩して地面を均平にします。

- (4)米ぬか・ソイルクリーンの散布
米ぬか・ソイルクリーンを10a当りの必要量をムラのないよう施用します。
- (5)耕起
米ぬか・ソイルクリーンを散布後、直ちに耕起します。その際、かん水ムラがでないよう地面を均平に仕上げます。
- (6)チューブの設置
ハウス全面にかん水が行き渡るようチューブを設置します。かん水チューブは60cm間隔に設置し散水チューブは能力に応じてハウスに1～4本を設置します。
- (7)かん水の実施
100～500mmにかん水を行います(100坪ハウスの場合30～45t)。
- (8)被覆
かん水終了後、透明マルチで地面を覆います。
- (9)ハウスの密閉
ハウスを密閉し約20日間ほど放置します。この間にドブのような臭いがすれば消毒は成功です。
- (10)消毒後処理
放置後、被覆用透明マルチ、チューブなどを撤去し数日間解放して終了です。



米ぬかの散布



被覆後の様子



終了時の様子



6月・7月の柑橘園管理

果樹

原口 悠貴
下島営農指導センター
080-2725-7775

1. 病害虫防除

品種	対象病害虫	属性	農薬名	希釈倍数	水10ℓ当たり	散布時期
温州	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	普通物	トランスフォームフロアブル	2,000倍	5ml	6月上旬～下旬
	黒点病	普通物	混用 ジマンダイセン水和剤	400倍	25g	
	展着剤	普通物	加用 アビオンE	1,000倍	10ml	
	ミカンハダニ	普通物	ハーベストオイル	150倍	66.7ml	6月中旬～下旬
	ミカンサビダニ	劇物	混用 ハチハチフロアブル	2,000倍	5ml	
	アザミウマ類 ゴマダラカミキリ	劇物	※モスピランSL液剤	4,000倍	2.5ml	7月上旬～中旬
黒点病	普通物	混用 ジマンダイセン水和剤	400倍	25g		
中晩柑	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	普通物	トランスフォームフロアブル	2,000倍	5ml	6月上旬～下旬
	黒点病	普通物	混用 ジマンダイセン水和剤	600倍	16.7g	
	展着剤	普通物	加用 アビオンE	1,000倍	10ml	
	ミカンハダニ	普通物	ハーベストオイル	150倍	66.7ml	6月中旬
	黒点病	普通物	ジマンダイセン水和剤	600倍	16.7g	6月下旬
	ミカンサビダニ	劇物	混用 ハチハチフロアブル	2,000倍	5ml	
	アザミウマ類 ゴマダラカミキリ	劇物	※モスピランSL液剤	4,000倍	2.5ml	7月中旬
黒点病	普通物	混用 エムダイファー水和剤	600倍	16.7g		
共通	カメムシ	普通物	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	5g	発生時
		劇物	テルスターフロアブル	5,000倍	2ml	

※ハーベストオイルについては、落果の多い樹・樹勢低下樹には使用を控えて下さい。※カイガラムシが多い園では、再度エルサン乳剤1,000倍を散布。(6月中旬～下旬) ※アザミウマ類、ゴマダラカミキリはアドマイヤーフロアブル4,000倍も使用可能です。(7月)

2. 施肥

施肥タイプ	肥料名	施用時期	品種名	10a当たり
通常タイプ	果樹専用スペシャル	6月上旬	早生・中熟・普通温州	2袋
			ボンカン	3袋
			清見・甘夏・パール柑・河内晩柑	5袋
			デコポン	4袋
省力化タイプ(年間2回)	新アグリロング28号	7月上旬	全品種	5袋

4. タイベック(マルチ等)被覆の実施(温州みかんのみ)

着色促進や品質向上の為、タイベック(マルチ等)の被覆を実施しましょう。

品種	被覆時期
肥のあかり・豊福・肥のさやか	6月下旬～7月上旬
肥のあけぼの・早生	7月中旬～8月中旬

3. 葉面散布

目的	薬剤名	希釈倍数	備考
樹勢維持	尿素 又は 神協スピリッツ 又は アミノジューシーN14	500倍	新梢での緑化の遅れは、生理落果の助長を招きます。チッ素+マグネシウムの葉面散布で緑化促進を図りましょう。
緑化促進	葉面マグ	200倍	
新梢の充実 果皮強化対策	ジューシーカル 又は バイカルティ	1,000倍	温州・デコポン等

5. 粗摘果の実施

早期に摘果を行う事により、残った果実の肥大が促進されます。基本的には生理落果終了後から行いますが、極早生温州など収穫までの日数が短い品種では、2次落果頃から摘果を行う事により肥大が促進されます。



～農作業事故ゼロを目指して～ 農機具安全講習会

JA あまくさ果樹部会は同JA上島農機センターで4月27日に農機具安全講習会を開き、部会員23名が集まりました。農機具メーカーと農機センター職員が講師となり、大型機械や果樹粉砕機、歩行型草刈り機、チェーンソー等の適切な使用方法を実演指導しました。同部会東支部の光崎修一支部長は「JA管内でも昨年、果樹粉砕機で事故があったばかり。ベテラン農家ゆえに油断すると、大事故につながる。定期的に東支部でも講習会を開き事故防止に努めたい」と話しました。



令和4年度、熊本県下での農作業中の事故は17件、うち死亡事故8件。

◀真剣に講習を受ける参加者